

# 1. 日本臨床整形外科学会雑誌 規程集（表紙）

新旧対照表

現行	変更案	備考
日本臨床整形外科学会雑誌 規程集	日本臨床整形外科学会雑誌 規程集	
論文投稿について 日本臨床整形外科学会雑誌（日臨 整誌）への投稿	論文投稿について 日本臨床整形外科学会雑誌（日臨 整誌）への投稿	
国際化プロジェクト論文, 和文一 般論文 投稿規程 執筆要項	国際化プロジェクト論文, 和文一 般論文 投稿規程 執筆要項	
学術集会発表演題論文 投稿規程	学術集会発表演題論文 投稿規程	
手引集 電子投稿の手引き [国際化プロジェクト論文, 和 文一般論文, 学術集会発表演 題論文] 文献の記載の手引き [国際化プロジェクト論文, 和 文一般論文, 学術集会発表演 題論文] 文献の添付の手引き [国際化プロジェクト論文, 和 文一般論文]	手引集 電子投稿の手引き [国際化プロジェクト論文, 和 文一般論文, 学術集会発表演 題論文] 文献の記載の手引き [国際化プロジェクト論文, 和 文一般論文, 学術集会発表演 題論文] 文献の添付の手引き [国際化プロジェクト論文, 和 文一般論文]	
様式集 様式第1 [国際化プロジェクト論文, 和 文一般論文, 学術集会発表演 題論文] 様式第2 [国際化プロジェクト論文, 和 文一般論文, 学術集会発表演 題論文] 様式第3 [国際化プロジェクト論文, 和 文一般論文, 学術集会発表演 題論文] 様式第4 [国際化プロジェクト論文, 和 文一般論文, 学術集会発表演 題論文]	様式集 様式第1 <b>表紙</b> <del>〔国際化プロジェクト論文, 和 文一般論文, 学術集会発表演 題論文〕</del> 様式第2 <b>雑誌利益相反自己申 告書</b> <del>〔国際化プロジェクト論文, 和文一般論文, 学術集会発表演 題論文〕</del> 様式第3 <b>転載許諾願い</b> <del>〔国際化プロジェクト論文, 和 文一般論文, 学術集会発表演 題論文〕</del> 様式第4 <b>機関レポジトリ収載 等</b> <del>〔国際化プロジェクト論文, 和 文一般論文, 学術集会発表演 題論文〕</del>	・各様式に対し説明を付す ・様式は全ての論文に対し共通事 項となるので、論文投稿の区別は 削除する
注: 括弧内は対象となる論文投稿 の区分	注: 括弧内は対象となる論文投稿 の区分	
一般社団法人日本臨床整形外科学会における事業活動の利益相反 (COI) に関する指針	一般社団法人日本臨床整形外科学会における事業活動の利益相反 (COI) に関する指針	

書式変更: インデント: 最初の行: 1 字

現行	変更案	備考
一般社団法人日本臨床整形外科学会における事業活動の利益相反に関する規則	一般社団法人日本臨床整形外科学会における事業活動の利益相反に関する規則	

## 2. 投稿論文について

### 新旧対照表

現行	変更案	備考
<p>論文投稿について</p> <p>日本臨床整形外科学会雑誌（日臨整誌）とJCOA会報は、論文の投稿を歓迎します。</p>  <p>The Journal of the Japanese Clinical Orthopaedic Association 日本臨床整形外科学会雑誌 査読がある学術雑誌</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会員以外の学術集会演者（医療スタッフ含む）の投稿論文も募集しています。</li> <li>・最新の規程集をウェブに掲載しています。</li> <li>・下記区分表のいずれかの区分に投稿してください。</li> </ul>  <p>JCOA会報 査読がなく投稿しやすい会報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学術集会での発表を業績として残すことができます。</li> <li>・会報掲載の会報投稿規程をご覧ください。</li> </ul>	<p>論文投稿について</p> <p>日本臨床整形外科学会雑誌（日臨整誌）とJCOA会報は、論文の投稿を歓迎します。</p>  <p>The Journal of the Japanese Clinical Orthopaedic Association 日本臨床整形外科学会雑誌 査読がある学術雑誌</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会員以外の学術集会演者（医療スタッフ含む）の投稿論文も募集しています。</li> <li>・最新の規程集をウェブに掲載しています。</li> <li>・下記区分表のいずれかの区分に投稿してください。</li> </ul>  <p>JCOA会報 査読がなく投稿しやすい会報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学術集会での発表を業績として残すことができます。</li> <li>・会報掲載の会報投稿規程をご覧ください。</li> </ul>	

現行	変更案	備考
・査読はなく、編集を経て掲載されます。	・査読はなく、編集を経て掲載されます。	

日本臨床整形外科学会雑誌の論文投稿の区分

区分	概要	規程	投稿先
国際化プロジェクト論文	和文で論文を投稿、英文で刊行。 但し、学会雑誌編集委員会で審査し、国際化プロジェクト論文にふさわしいと判断されたものに限る。 和文原稿で受付前チェックと査読。 和文原稿の編集、著者校正を経て、和文原稿を専門家が英訳。 主著者が会員の場合、英訳の費用は学会が負担。	国際化プロジェクト論文、和文一般論文の共通の投稿規程、執筆要項。	オンライン投稿システム 「ScholarOne Manuscripts」
和文一般論文	従来と同様の和文論文。 政策、経済、法制度など、和文で発表する必要があるものはこの区分。（英文abstractは必須） そのほか、英訳を希望しない場合もこの区分で投稿。	国際化プロジェクト論文、和文一般論文の共通の投稿規程、執筆要項。	オンライン投稿システム 「ScholarOne Manuscripts」
学術集会発表演題論文	演題発表の際に原稿も同時に準備。 受け付けられなかった場合は、執筆し直して、国際化プロジェクト論文か和文一般論文として雑誌に投稿するか、または会報に投稿。 和文要旨は本学会が費用を負担して英訳。	学術集会発表演題論文投稿規程	オンライン投稿システム 「ScholarOne Manuscripts」

現行	変更案	備考
<p><b>区分の変更</b></p> <p>国際化プロジェクト論文の区分で投稿された場合、学会雑誌編集委員会の審査により、和文一般論文へ変更されることがあります。</p> <p>また、和文一般論文として投稿された場合でも、内容が秀逸である場合には、学会雑誌編集委員会の審査を経て、著者の承諾のもとで国際化プロジェクト論文へ変更されることがあります。</p> <p>一方で、国際化プロジェクト論文や和文一般論文として投稿された場合でも、学会雑誌編集委員会の審査により、学術集会発表演題論文への変更が促されることもあります。</p> <p><b>オンライン投稿システム</b></p> <p>日本臨床整形外科学会ウェブサイト (<a href="https://jcoa.gr.jp/">https://jcoa.gr.jp/</a>) の専用投稿サイト（「ScholarOne Manuscripts」）からユーザー登録の上、「新規投稿」から著者</p>	<p><b>区分の変更</b></p> <p>投稿された国際化プロジェクト論文、和文一般論文、学術集会発表演題論文は、学会雑誌編集委員会の審査を経て区分が変更されることがあります。国際化プロジェクト論文の区分で投稿された場合、学会雑誌編集委員会の審査により、和文一般論文へ変更されることがあります。</p> <p>また、和文一般論文として投稿された場合でも、内容が秀逸である場合には、学会雑誌編集委員会の審査を経て、著者の承諾のもとで国際化プロジェクト論文へ変更されることがあります。</p> <p>一方で、国際化プロジェクト論文や和文一般論文として投稿された場合でも、学会雑誌編集委員会の審査により、学術集会発表演題論文への変更が促されることもあります。</p> <p><b>オンライン投稿システム</b></p> <p>日本臨床整形外科学会ウェブ</p>	

現行	変更案	備考
(投稿者)としてログインし、必要事項の確認・入力、必要なファイルの提出を行ってください。その際にはオンライン投稿マニュアルを注意深く確認してください。	サイト( <a href="https://jcoa.gr.jp/">https://jcoa.gr.jp/</a> )の専用投稿サイト(「ScholarOne Manuscripts」)からユーザー登録の上、「新規投稿」から著者(投稿者)としてログインし、必要事項の確認・入力、必要なファイルの提出を行ってください。その際にはオンライン投稿マニュアルを注意深く確認してください。	

### 3. 日本臨床整形外科学会雑誌(日臨整誌)への投稿

新旧対照表

現行	変更案	備考
<p>日本臨床整形外科学会雑誌(日臨整誌)への投稿</p> <p>整形外科学、運動器医学及び整形外科領域の医療に寄与する論文の投稿を受け付けています。</p> <p><b>お知らせ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>論文は、国際化プロジェクト論文、和文一般論文又は学術集会発表演題論文のいずれかの区分で投稿してください。</li> <li>投稿後、学会雑誌編集委員会が審査を行います。その結果によっては投稿区分が変更されることがあります。</li> <li>国際化プロジェクト論文は、和文で投稿された論文を英文で刊行します(専門家による英訳、主著者が会員の場合は本学会が費用を負担)。政策、経済、法制度など、和文で発表する必要がある場合や、著者が英訳を希望しない場合は、従来どおりの和文一般論文の区分で投稿してください。</li> <li>和文一般論文の場合は、英文abstractが必須です。英文abstractを用意できない場合は、和文要旨から英訳するサービスを申し込むことができます(費用は主著者負担)。</li> <li>学術集会発表演題論文は、学術集会で発表した演題をそのまま発表原稿やスライドの図表を利用して投稿する区分です。学術集会発表演題論文を投稿し刊行された場合、同じ内容の</li> </ul>	<p>日本臨床整形外科学会雑誌(日臨整誌)への投稿</p> <p>整形外科学、運動器医学及び整形外科領域の医療に寄与する論文の投稿を受け付けています。</p> <p><b>お知らせ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>論文は、国際化プロジェクト論文、和文一般論文又は学術集会発表演題論文のいずれかの区分で投稿してください。</li> <li>投稿後、学会雑誌編集委員会が審査を行います。その結果によっては投稿区分が変更されることがあります。</li> <li>国際化プロジェクト論文は、和文で投稿された論文を英文で刊行します(専門家による英訳、主著者が会員の場合は本学会が費用を負担)。政策、経済、法制度など、和文で発表する必要がある場合や、著者が英訳を希望しない場合は、従来どおりの和文一般論文の区分で投稿してください。</li> <li>和文一般論文の場合は、英文abstractが必須です。英文abstractを用意できない場合は、和文要旨から英訳するサービスを申し込むことができます(費用は主著者負担)。</li> <li>学術集会発表演題論文は、学術集会で発表した演題をそのまま発表原稿やスライドの図表を利用して投稿する区分です。学術集会発表演題論文を投稿し刊行された場合、同じ内容の</li> </ul>	

現行	変更案	備考
論文や著作物を他に発表することは二重投稿となるためできません(著作権は本学会に譲渡され、原著論文と同じ取扱いになります)。 <ul style="list-style-type: none"> <li>すべての論文投稿で利益相反の申告は必須です。</li> <li>キーワードは不要です(和文英文とも廃止)。</li> </ul>	論文や著作物を他に発表することは二重投稿となるためできません(著作権は本学会に譲渡され、原著論文と同じ取扱いになります)。 <ul style="list-style-type: none"> <li>すべての論文投稿で利益相反の申告は必須です。</li> <li>キーワードは不要です(和文英文とも廃止)。</li> <li>表紙(様式第1)情報は、オンライン投稿システムにてご入力下さい。なお、様式第1は提出の必要はありません。</li> </ul>	表紙情報はオンライン投稿システムから入力するため追加

**投稿にあたって論文原稿に添付(学術集会発表演題論文の場合は別送)していただくもの**

	国際化プロジェクト論文 和文一般論文	学術集会発表演題論文
投稿原稿の表紙(様式第1)	○	○
利益相反自己申告書(様式第2)	○※1	○※1
文献のコピー(文献の添付の手引き参照)	○	×
許諾文書(必要な場合、様式第3)	○	○※2

注: ○必要 ×不要

※1 利益相反自己申告書は、原則として本学会が指定するシステムにより送信してください。

——詳しくは、本学会事務局まで電子メールでお問合せください。——

※2 論文は、オンライン投稿システム(日本臨床整形外科学会ウェブサイト(<https://jcoa.gr.jp/>))の専用投稿サイト「ScholarOne Manuscripts」から投稿し、許諾文書は別途、本学会事務局まで送付してください。

日本臨床整形外科学会事務局  
 郵便番号110-0016  
 東京都台東区台東4丁目26番8号  
 御徒町台東ビル6階  
 電子メールアドレスoffice@jcoa.sakura.ne.jp

**投稿にあたって別送(日本臨床整形外科学会事務局宛)していただくもの**

○ 利益相反自己申告書(様式第2)
利益相反自己申告書は、原則として本学会が指定する <b>別の</b> システムにより送信してください。 詳しくは、本学会事務局まで電子メールでお問合せください。
○ 許諾文書(必要な場合、様式第3)
論文は、オンライン投稿システム(日本臨床整形外科学会ウェブサイト( <a href="https://jcoa.gr.jp/">https://jcoa.gr.jp/</a> ))の専用投稿サイト「ScholarOne Manuscripts」から投稿し、許諾文書は別途、本学会事務局まで送付してください。

日本臨床整形外科学会事務局  
 郵便番号110-0016  
 東京都台東区台東4丁目26番8号

御徒町台東ビル6階  
電子メールアドレスoffice@jcoa.sakura.ne.jp

現行	変更案	備考
<p>※ 1 利益相反自己申告書は、原則として本学会が指定するシステムにより送信してください。詳しくは、本学会事務局まで電子メールでお問合せください。</p> <p>※ 2 論文は、オンライン投稿システム（日本臨床整形外科学会ウェブサイト（<a href="https://jcoa.gr.jp/">https://jcoa.gr.jp/</a>）の専用投稿サイト「ScholarOne Manuscripts」）から投稿し、許諾文書は別途、本学会事務局まで送付してください。</p> <p>日本臨床整形外科学会事務局 郵便番号 110-0016 東京都台東区台東 4 丁目 26 番 8 号 御徒町台東ビル 6 階 電子メールアドレス office@jcoa.sakura.ne.jp</p>	<p><del>※ 1 利益相反自己申告書は、原則として本学会が指定するシステムにより送信してください。詳しくは、本学会事務局まで電子メールでお問合せください。</del></p> <p><del>※ 2 論文は、オンライン投稿システム（日本臨床整形外科学会ウェブサイト（<a href="https://jcoa.gr.jp/">https://jcoa.gr.jp/</a>）の専用投稿サイト「ScholarOne Manuscripts」）から投稿し、許諾文書は別途、本学会事務局まで送付してください。</del></p> <p>日本臨床整形外科学会事務局 郵便番号 110-0016 東京都台東区台東 4 丁目 26 番 8 号 御徒町台東ビル 6 階 電子メールアドレス office@jcoa.sakura.ne.jp</p>	<p>すべての投稿区分に対する共通の事項となったため、説明文等については表中に取り込むこととした。</p> <p>事務局連絡先は、表外にて表示する。</p>

#### 4. 投稿規程（国際化プロジェクト論文，和文一般論文）

新旧対照表

現行	変更案	備考
<p>投稿規程</p> <p>国際化プロジェクト論文，和文一般論文</p> <p>・この規程は，日本臨床整形外科</p>	<p>投稿規程</p> <p>国際化プロジェクト論文，和文一般論文</p> <p>・この規程は，日本臨床整形外科</p>	

現行	変更案	備考
<p>学会雑誌（略称、日臨整誌）に掲載する国際化プロジェクト論文及び和文一般論文の投稿原稿の作成並びに投稿方法などについて定める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>論文は、本規程、執筆要項及び手引集に定める方法で原稿を作成し、投稿すること。</li> <li>ここに記載のない事項については、ICMJE Recommendations に準拠すること。</li> </ul> <p><b>1 著者資格 (Authorship Policy)</b> 主著者及び共著者は、原則として本学会会員又は本学会の学会雑誌編集委員会が認めた者に限る。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>共著者は、論文に実質的かつ知的に貢献し、担当部分に責任を持てる者とし、共著者の氏名は、様式第1に論文への貢献度の高い順に記載すること。</li> <li>責任著者 (corresponding author) 1人を様式第1で明示すること。</li> <li>儀礼上のオーサーシップ (gift author, guest author など) は、認められない。</li> </ol> <p><b>2 二重投稿の禁止</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>投稿論文は、未発表又は他に発表予定がないものに限る。</li> <li>同様又は類似した内容の先行発表がある場合、二重投稿とみなされる可能性があるため、これらのコピーを添付し、申告すること。</li> <li>主著者は、学会雑誌編集委員会から説明を求められたときには、詳しく説明しなければならない。</li> </ol> <p><b>3 利益相反の開示 (Conflict of Interest Policy)</b> 主著者及びすべての共著者は、本学会が定める事業活動の利益相反 (COI) に関する指針及び規則</p>	<p>学会雑誌（略称、日臨整誌）に掲載する国際化プロジェクト論文及び和文一般論文の投稿原稿の作成並びに投稿方法などについて定める。</p> <p><b>・国際化プロジェクト論文及び和文一般論文は、本規程に則り、オンライン投稿システムから投稿すること。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>論文は、本規程、執筆要項及び手引集に定める方法で原稿を作成し、投稿すること。</li> <li>ここに記載のない事項については、ICMJE Recommendations に準拠すること。</li> </ul> <p><b>1 著者資格 (Authorship Policy)</b> 主著者及び共著者は、原則として本学会会員又は本学会の学会雑誌編集委員会が認めた者に限る。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>共著者は、論文に実質的かつ知的に貢献し、担当部分について責任を持てる者とする。共著者の氏名は、<b>オンライン投稿システム</b>に論文への貢献度の高い順に記載すること。</li> <li>責任著者 (corresponding author) は<b>1名とし、オンライン投稿システム</b>で明示すること。</li> <li>儀礼上のオーサーシップ (gift author, guest author など) は、認められない。</li> </ol> <p><b>2 二重投稿の禁止</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>投稿論文は、未発表又は他に発表予定がないものに限る。</li> <li>同様又は類似した内容の先行発表がある場合、二重投稿とみなされる可能性があるため、これらのコピーを添付し、申告すること。</li> <li>主著者は、学会雑誌編集委員会から説明を求められたときには、詳しく説明しなければならない。</li> </ol> <p><b>3 利益相反の開示 (Conflict of Interest Policy)</b> 主著者及びすべての共著者は、本学会が定める事業活動の利益相反 (COI) に関する指針及び規則に基づき、論文の内容に影響を及</p>	<p>論文の投稿先を明示した。 * 学術集会発表演題論文の説明文と同じとした。</p> <p>文章の校正をした。 情報の記載先を明記した。</p> <p>文章の校正をした。 情報の記載先を明記した。</p>

現行	変更案	備考
<p>に基づき、論文の内容に影響を及ぼす可能性がある利益相反の状態を明示しなければならない(様式第2参照)。</p> <p>1. 主著者及び共著者全員は、それぞれ別個に、様式第2(日本臨床整形外科学会雑誌利益相反自己申告書)に記載すること。</p> <p>2. 主著者は、共著者の申告書を取りまとめ、指定されたシステムにより本学会事務局まで送信すること。</p> <p>3. 様式第2の申告内容から、金額など実額がわかる情報を省いた上で、利益相反状態を要約した和文及び英文のステートメントを様式第1に記載すること。これらは、校正・編集のうえ掲載される。</p> <p><b>4 著作権</b> 論文の著作権は、本学会に帰属する。</p> <p>1. 主著者及び共著者全員が、本学会への著作権の譲渡に同意したものとみなす。</p> <p>2. 本学会の許諾なく、投稿以後、論文又は論文の著作権を使用してはならない。</p> <p>3. 主著者及び共著者は、自身の所属機関の機関リポジトリ、データベース、紀要、病院誌、記録集又はウェブサイトなどに掲載された自身の論文(複写、発行された雑誌の別刷又は本学会ウェブサイトに掲示された電子ファイル)を、完全な形においてのみ、商用目的ではない場合に限り、出典と著作権関係を明示して掲載することができる。その際、様式第4-1(機関リポジトリ収載)により、本学会に連絡すること。</p> <p>4. 掲載された論文の全部又は一部を転載、改変して利用若しくは引用の範囲を超えて利用しようとする場合は、様式第4-2(転載許諾願い)により、本学会の許諾を得ること。</p> <p><b>5 他の刊行物などの利用及び著作権の侵害</b> 他の刊行物などの全部又は一</p>	<p>ぼす可能性がある利益相反の状態を明示しなければならない(様式第2参照)。</p> <p>1. 主著者及び共著者全員は、それぞれ別個に、様式第2(日本臨床整形外科学会雑誌利益相反自己申告書)に記載すること。</p> <p>2. 主著者は、共著者の申告書を取りまとめ、指定された別のシステムにより本学会事務局まで送信すること。</p> <p>3. 様式第2の申告内容から、金額など実額が<b>特定される</b>情報を<b>除</b>いた上で、利益相反状態を要約した和文及び英文のステートメントを<b>オンライン投稿システム</b>に記載すること。これらは、校正・編集のうえ掲載される。</p> <p><b>4 著作権</b> 論文の著作権は、本学会に帰属する。</p> <p>1. 主著者及び共著者全員が、本学会への著作権の譲渡に同意したものとみなす。</p> <p>2. 本学会の許諾なく、投稿以後、論文又は論文の著作権を使用してはならない。</p> <p>3. 主著者及び共著者は、自身の所属機関の機関リポジトリ、データベース、紀要、病院誌、記録集又はウェブサイトなどに掲載された自身の論文(複写、発行された雑誌の別刷又は本学会ウェブサイトに掲示された電子ファイル)を、完全な形においてのみ、商用目的ではない場合に限り、出典と著作権関係を明示して掲載することができる。その際、様式第4-1(機関リポジトリ収載)により、本学会に連絡すること。</p> <p>4. 掲載された論文の全部又は一部を転載、改変して利用若しくは引用の範囲を超えて利用しようとする場合は、様式第4-2(転載許諾願い)により、本学会の許諾を得ること。</p> <p><b>5 他の刊行物などの利用及び著作権の侵害</b> 他の刊行物などの全部又は一</p>	<p></p> <p>表現を明確にした。</p> <p>文章の校正をした。</p> <p>情報の記載先を明記した。</p>

現行	変更案	備考
<p>部を転載、改変して利用若しくは引用の範囲を超えて利用しようとする場合は、主著者がその著作権者の許諾を得なければならない。</p> <p>1. 様式第3（転載許諾願い）により、著作権者の許諾を得、その文書又はその写しを投稿論文に添付すること。</p> <p>2. 論文文中に出典と許諾を明示すること。</p> <p>3. 著作権関係が不明なもの、許諾の有無が不明なものを含む論文は、掲載しない。</p> <p>4. 他者の著作権を侵害した場合は、主著者がそのすべての責任を負う。</p> <p><b>6 倫理</b> 文部科学省・厚生労働省「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」、ヘルシンキ宣言及びCIOMS International Ethical Guidelines for Health-related Research Involving Humans を遵守すること。所属機関の倫理委員会又はそれに準じる機関の承認を得ることが望ましい。</p> <p><b>7 個人情報保護</b> 個人情報は、匿名化すること。匿名化が困難な場合は、文書による同意を得ること。</p> <p>1. 患者の姓名やイニシャル、患者番号など、個人を特定できる情報を記載しないこと。</p> <p>2. 図や写真は、個人識別ができないように処理すること。</p> <p><b>8 受付、査読、採否、掲載の変更、区分の変更、編集</b> 論文の掲載は、学会雑誌編集委員会決定する。</p> <p>1. 査読は、査読委員会と学会雑誌編集委員が行う。</p> <p>2. 学会雑誌編集委員会は、字句の訂正、組版の修正などを行うとともに、主著者に原稿の修正を求められることができる。</p> <p>3. 学会雑誌編集委員会は、掲載を本学会会報に変更することができる。</p> <p>4. 主著者は、受付・受理されなかった場合、本学会会報への投</p>	<p>引用の範囲を超えて利用しようとする場合は、主著者がその著作権者の許諾を得なければならない。</p> <p>1. 様式第3（転載許諾願い）により、著作権者の許諾を得、その文書又はその写しを<b>本学会に連絡すること。</b></p> <p>2. 論文文中に出典と許諾を明示すること。</p> <p>3. 著作権関係が不明なもの、許諾の有無が不明なものを含む論文は、掲載しない。</p> <p>4. 他者の著作権を侵害した場合は、主著者がそのすべての責任を負う。</p> <p><b>6 倫理</b> 文部科学省・厚生労働省・<b>経済産業省</b>「人を対象とする<b>生命科学</b>・医学系研究に関する倫理指針」、ヘルシンキ宣言及びCIOMS International Ethical Guidelines for Health-related Research Involving Humans を遵守すること。所属機関の倫理委員会又はそれに準じる機関の承認を得ることが望ましい。</p> <p><b>7 個人情報保護</b> 個人情報は、匿名化すること。匿名化が困難な場合は、文書による同意を得ること。</p> <p>1. 患者の姓名やイニシャル、患者番号など、個人を特定できる情報を記載しないこと。</p> <p>2. 図や写真は、個人識別ができないように処理すること。</p> <p><b>8 受付、査読、採否、掲載の変更、区分の変更、編集</b> 論文の掲載は、学会雑誌編集委員会決定する。</p> <p>1. 査読は、査読委員会と学会雑誌編集委員が行う。</p> <p>2. 学会雑誌編集委員会は、字句の訂正、組版の修正などを行うとともに、主著者に原稿の修正を求められることができる。</p> <p>3. 学会雑誌編集委員会は、掲載を本学会会報に変更することができる。</p> <p>4. 主著者は、受付・受理されなかった場合、本学会会報への投稿変更を希望することができ</p>	<p>提出方法を修正した。</p> <p>文章の校正をした。 文書の正式名称変更のため</p>

現行	変更案	備考
<p>稿変更を希望することができる。</p> <p>5. 本学会会報への投稿に変更する場合、その時点でオンライン投稿システムに登録されている最も新しい原稿が本学会会報に投稿されたものとして取り扱い、本学会会報の投稿規程が適用される。</p> <p>6. 学会雑誌編集委員会は、国際化プロジェクト論文の区分で投稿された論文を、和文一般論文に変更することができる。</p> <p>7. 学会雑誌編集委員会は、和文一般論文の区分で投稿された論文を、主著者の承諾があれば、国際化プロジェクト論文に変更することができる。</p> <p>8. 学会雑誌編集委員会は、国際化プロジェクト論文又は和文一般論文の区分で投稿された論文の主著者に対して、学術集会発表演題論文への区分変更を促すことができる。</p> <p>9. 学会雑誌編集委員会は、本雑誌に掲載した論文に問題が生じたときは、掲載を取り消すことができる。</p> <p><b>9 日本臨床整形外科学会学術集会</b> 本学会学術集会での発表は、本雑誌への投稿を求める。</p> <p><b>10 著者校正</b> 1. 国際化プロジェクト論文では、学会雑誌編集委員会で受理後の校正を行った和文原稿と、その英訳された英文原稿で2回行い、内容の変更はできない。 2. 和文一般論文では、ゲラ第2稿で1回行い、内容の変更はできない。</p> <p><b>11 掲載料</b> 掲載料は無料とする。ただし、以下の場合、主著者の費用負担とする。 1. カラーの図表掲載を希望する場合。 2. 文字数が規定を超えて、誌面の追加を要する場合。 3. 国際化プロジェクト論文の主著者が非会員の場合の英訳費用（主著者が会員の場合は無</p>	<p>る。</p> <p>5. 本学会会報への投稿に変更する場合、その時点でオンライン投稿システムに登録されている最も新しい原稿が本学会会報に投稿されたものとして取り扱い、本学会会報の投稿規程が適用される。</p> <p>6. 学会雑誌編集委員会は、国際化プロジェクト論文の区分で投稿された論文を、和文一般論文に変更することができる。</p> <p>7. 学会雑誌編集委員会は、和文一般論文の区分で投稿された論文を、主著者の承諾があれば、国際化プロジェクト論文に変更することができる。</p> <p>8. 学会雑誌編集委員会は、国際化プロジェクト論文又は和文一般論文の区分で投稿された論文の主著者に対して、学術集会発表演題論文への区分変更を促すことができる。</p> <p>9. 学会雑誌編集委員会は、本雑誌に掲載した論文に問題が生じたときは、掲載を取り消すことができる。</p> <p><b>9 日本臨床整形外科学会学術集会</b> 本学会学術集会での発表は、本雑誌への投稿を求める。</p> <p><b>10 著者校正</b> 1. 国際化プロジェクト論文では、学会雑誌編集委員会で受理後の校正を行った和文原稿と、その英訳された英文原稿で2回行い、内容の変更はできない。 2. 和文一般論文では、ゲラ第2稿で1回行い、内容の変更はできない。</p> <p><b>11 掲載料</b> 掲載料は無料とする。ただし、以下の場合、主著者の費用負担とする。 1. カラーの図表掲載を希望する場合。 2. 文字数が規定を超えて、誌面の追加を要する場合。 3. 国際化プロジェクト論文の主著者が非会員の場合の英訳費用（主著者が会員の場合は無</p>	

現行	変更案	備考
<p>料).</p> <p>4. 和文一般論文において、主著者からの要請により要旨を英訳する場合.</p> <p><b>12 別刷</b> 別刷は、投稿時に主著者が希望する場合に、30部以上10部単位で刊行時に製作し、30部を超えるものの費用は主著者負担とする(様式第1に記入、別表参照).</p> <p><b>13 その他</b> 掲載された論文の投稿原稿は、返却しない.</p> <p><b>14 投稿</b> 投稿は、日本臨床整形外科学会ウェブサイト (<a href="https://jcoa.gr.jp/">https://jcoa.gr.jp/</a>) の専用投稿サイト「Scholar One Manuscripts」からユーザー登録の上、「新規投稿」から著者(投稿者)としてログインし、必要事項の入力の上、必要なファイルの提出を行ってください。その際には、オンライン投稿マニュアル、電子投稿の手引きを注意深く確認してください。</p> <p>2007年6月1日制定 2024年4月21日改定 2025年4月20日改定</p>	<p>4. 和文一般論文において、主著者からの要請により要旨を英訳する場合.</p> <p><b>12 別刷</b> 別刷は、投稿時に主著者が希望する場合に、30部以上10部単位で刊行時に製作し、30部を超えるものの費用は主著者負担とする(<b>オンライン投稿システム上で</b>記入、別表参照).</p> <p><b>13 その他</b> 掲載された論文の投稿原稿は、返却しない.</p> <p><b>14 投稿</b> 投稿は、日本臨床整形外科学会ウェブサイト (<a href="https://jcoa.gr.jp/">https://jcoa.gr.jp/</a>) の専用投稿サイト「Scholar One Manuscripts」からユーザー登録の上、「新規投稿」から著者(投稿者)としてログインし、必要事項の入力の上、必要なファイルの提出を行ってください。その際には、オンライン投稿マニュアル、電子投稿の手引きを注意深く確認してください。</p> <p>2007年6月1日制定 2024年4月21日改定 2025年4月20日改定 <b>2026年〇月〇日改訂</b></p>	<p>情報の記載先を明記した。 別表参照とは、本誌に掲載している別刷料金一覧表のことであるため、このままの表記を残す</p>

## 5. 執筆要項 (国際化プロジェクト論文, 和文一般論文)

新旧対照表

現行	変更案	備考
<p>執筆要項</p> <p>国際化プロジェクト論文, 和文一般論文</p> <p><b>1 投稿原稿の区分と字数図表点数の区分</b></p> <p>1. 様式第1で国際化プロジェクト論文, 和文一般論文, その他(レターなど)のいずれか希望する区分を選択すること.</p> <p>2. 原稿の字数は, 本文, 付言と文献で数える.</p>	<p>執筆要項</p> <p>国際化プロジェクト論文, 和文一般論文</p> <p><b>1 投稿原稿の区分と字数図表点数の区分</b></p> <p>1. <b>オンライン投稿システム上</b>で国際化プロジェクト論文, 和文一般論文, その他(レターなど)のいずれか希望する区分を選択すること.</p> <p>2. 原稿の字数は, 本文, 付言と</p>	<p>情報の記載先を明記した。</p>

現行	変更案	備考
<p>総説, 原著, 臨床経験など 12,000 字以内で図表は合計 15 点まで。 症例報告, その他 6,000 字以内で図表は合計 8 点まで。 レター 2,000 字以内。</p> <p>3. 表, 写真, グラフ, 線画, チャート及びイラストなどは, 1 点ずつを別個に数える。 4. その他必要な事項は, 学会雑誌編集委員会が定める。 5. これらの区分にあてはまらない場合や不明な場合は, 投稿前に学会雑誌編集委員会に相談すること。</p> <p><b>2 原稿の作成</b></p> <p>1. 学術用語は, 医学用語辞典 (日本医学会), 整形外科学用語集 (日本整形外科学会), その他各学会の用語集に原則として従うこと。 2. 固有名詞と外国語は原則として原語で記載する。日本語化した外国語はカタカナで記載してよい。 3. 和文中の句点は全角のピリオド (.), 読点は全角のカンマ (,) を用いる。 4. 数量は, 原則として国際単位系 (Le Système international d'unités, SI 単位) に従う (mm, m, ml, l, mg, g, kg, °C など)。SI 単位以外では, 医学分野で常用されているもの (mmHg など) を用いる。 5. 暦年は, 西暦の全桁表示を基本とする (2019 年, 2019 年度のように表記)。法文などで和暦での記載を要する場合は, その限りではない。 6. 略語を用いる場合は, 初出時に, 日本語は正式な表記, 欧文はフルスペルを記して略語を示す (初出処理; 欧文と和語を併記することは差し支えない)。略語は, 要旨と本文それぞれで初出処理を行い, 一度使用した後は, 一貫して使用する。 例 厚生労働省 (以下厚労省) rheumatoid arthritis (以下 RA) 人工膝関節全置換術 (total</p>	<p>文献で数える。 総説, 原著, 臨床経験など 12,000 字以内で図表は合計 15 点まで。 症例報告, その他 6,000 字以内で図表は合計 8 点まで。 レター 2,000 字以内。</p> <p>3. 表, 写真, グラフ, 線画, チャート及びイラストなどは, 1 点ずつを別個に数える。 4. その他必要な事項は, 学会雑誌編集委員会が定める。 5. これらの区分にあてはまらない場合や不明な場合は, 投稿前に学会雑誌編集委員会に相談すること。</p> <p><b>2 原稿の作成</b></p> <p>1. 学術用語は, 医学用語辞典 (日本医学会), 整形外科学用語集 (日本整形外科学会), その他各学会の用語集に原則として従うこと。 2. 固有名詞と外国語は原則として原語で記載する。日本語化した外国語はカタカナで記載してよい。 3. 和文中の句点は全角のピリオド (.), 読点は全角のカンマ (,) を用いる。 4. 数量は, 原則として国際単位系 (Le Système international d'unités, SI 単位) に従う (mm, m, ml, l, mg, g, kg, °C など)。SI 単位以外では, 医学分野で常用されているもの (mmHg など) を用いる。 5. 暦年は, 西暦の全桁表示を基本とする (2019 年, 2019 年度のように表記)。法文などで和暦での記載を要する場合は, その限りではない。 6. 略語を用いる場合は, 初出時に, 日本語は正式な表記, 欧文はフルスペルを記して略語を示す (初出処理; 欧文と和語を併記することは差し支えない)。略語は, 要旨と本文それぞれで初出処理を行い, 一度使用した後は, 一貫して使用する。 例 厚生労働省 (以下厚労省) rheumatoid arthritis (以下 RA) 人工膝関節全置換術 (total</p>	



現行	変更案	備考
<p>付言、文献、図表の表題と図の説明文及び図表で構成する。 和文一般論文は、300words 以内の英文要旨 (abstract) も記すこととする。</p> <p>3. その他 (レターなど) は、この限りではない。</p> <p><b>4 原稿の各項目</b></p> <p>1. 表紙は、様式第1を用いるか、これと同等の書式で様式第1の各項目を記載する。</p> <p>2. 和文要旨は、400 字以内で、論文の概要と最も重要な論点を簡潔に記述する。 原則として、緒言 (又は目的、背景など)、(対象又は材料などと) 方法、結果、考察、結論 (又は結語など) の各段落で構成する。症例報告は、緒言、症例、考察、結語の各段落で構成する。それぞれの冒頭に見出しを記すこと。 要旨は、本文からは独立して扱い、略語、商品名の初出時の記載 (初出処理) を行うこと。特に必要でない限り、要旨中に商品名を記載することは避ける。</p> <p>3. 英文要旨 (英文 abstract) は、300words 以内で記すること。原則として objective (purpose or background), (materials and) methods, results, discussion, conclusion で構成する。症例報告では、introduction, case presentation, discussion, conclusion で構成する。それぞれの冒頭に見出しを記すこと。 主著者は、英文 abstract を用意することができない場合、和文要旨からの英訳のサービスを申し込むことができる。その場合は、様式第1の申し込み欄で申し込むこと。英訳は、和文要旨のみに基づいて受理後に行われる。その場合英訳は著者負担とする。</p> <p>4. 原則として、本文は、緒言 (又は目的、背景など)、(対象又は材料などと) 方法、結果、考察、結論 (又は結語など) で構成し、症例報告は、緒言、症例、考察、</p>	<p>付言、文献、図表の表題と図の説明文及び図表で構成する。 和文一般論文は、300words 以内の英文要旨 (abstract) も記すこととする。</p> <p>3. その他 (レターなど) は、この限りではない。</p> <p><b>4 原稿の各項目</b></p> <p>1. 表紙 <b>情報はオンライン投稿システムで様式第1に掲げる項目を入力</b>する。</p> <p>2. 和文要旨は、400 字以内で、論文の概要と最も重要な論点を簡潔に記述する。 原則として、緒言 (又は目的、背景など)、(対象又は材料などと) 方法、結果、考察、結論 (又は結語など) の各段落で構成する。症例報告は、緒言、症例、考察、結語の各段落で構成する。それぞれの冒頭に見出しを記すこと。 要旨は、本文からは独立して扱い、略語、商品名の初出時の記載 (初出処理) を行うこと。特に必要でない限り、要旨中に商品名を記載することは避ける。</p> <p>3. 英文要旨 (英文 abstract) は、300words 以内で記すること。原則として objective (purpose or background), (materials and) methods, results, discussion, conclusion で構成する。症例報告では、introduction, case presentation, discussion, conclusion で構成する。それぞれの冒頭に見出しを記すこと。 主著者は、英文 abstract を用意することができない場合、和文要旨からの英訳のサービスを申し込むことができる。その場合は、<b>オンライン投稿システム上</b>の申し込み欄で申し込むこと。英訳は、和文要旨のみに基づいて受理後に行われる。その場合英訳<b>費用</b>は著者負担とする。</p> <p>4. 原則として、本文は、緒言 (又は目的、背景など)、(対象又は材料などと) 方法、結果、考察、結論 (又は結語など) で構成し、症例報告は、緒言、症例、考察、</p>	<p>情報の記載先及び表紙に対する説明のため。</p> <p>情報の記載先を明記した。</p> <p>文書を校正した。</p>

現行	変更案	備考
<p>結語で構成すること。</p> <p>5. 付言は、以下に例示する事項、その他に関する記述であり、本文の後ろに記す。 謝辞。 貢献者や著者とするまでもない共同研究者。 学会発表など先行発表。 転載の許諾など著作権に関する事項。</p> <p>6. 文献は、必要不可欠なものとする。 論文中で言及した診断基準、評価基準、ガイドラインなどは、原典又は信頼できる総説の参照を明示する。 文献の記載方法は、文献の記載の手引きに従い、本文中の引用順に記載し、参照個所には文献番号を記入する。 私信などで十分な文献情報を記すことができない場合を除き、文献情報を調査することができるものであること。 文献は、文献の添付の手引きに沿ってコピーを1部ずつ付けること。 学会雑誌編集委員会は、著者に文献の完全なコピーの提出を求めることができる。</p> <p>7. 図表には表題を、図には、原則として図を説明し簡略に結論づける説明文を付け、これらを文献の後に記載すること。本文とまったく、あるいはほとんど同じ文面の説明文は、付けるべきではない。 図表は、特にカラーのものを掲載する必要がある場合を除き白黒(グレースケール)、背景色は特に必要でない限り白とし、そのまま版下に使うことができる程度の鮮明、精彩な品質であること。 図表中の脚注には、次の記号を原則としてこの順番で用いる。 * † ‡ §    ¶ ** † † ‡ ‡ 写真は、個人識別ができないように処理を行うこと。 例 目に入れる黒細線または眼球の黒塗り。 顔その他へのモザイク処理。</p>	<p>結語で構成すること。</p> <p>5. 付言は、以下に例示する事項、その他に関する記述であり、本文の後ろに記す。 謝辞。 貢献者や著者とするまでもない共同研究者。 学会発表など先行発表。 転載の許諾など著作権に関する事項。</p> <p>6. 文献は、必要不可欠なものとする。 論文中で言及した診断基準、評価基準、ガイドラインなどは、原典又は信頼できる総説の参照を明示する。 文献の記載方法は、文献の記載の手引きに従い、本文中の引用順に記載し、参照個所には文献番号を記入する。 私信などで十分な文献情報を記すことができない場合を除き、文献情報を調査することができるものであること。 文献は、文献の添付の手引きに沿ってコピーを1部ずつ付けること。 学会雑誌編集委員会は、著者に文献の完全なコピーの提出を求めることができる。</p> <p>7. 図表には表題を、図には、原則として図を説明し簡略に結論づける説明文を付け、これらを文献の後に記載すること。本文とまったく、あるいはほとんど同じ文面の説明文は、付けるべきではない。 図表は、特にカラーのものを掲載する必要がある場合を除き白黒(グレースケール)、背景色は特に必要でない限り白とし、そのまま版下に使うことができる程度の鮮明、精彩な品質であること。 図表中の脚注には、次の記号を原則としてこの順番で用いる。 * † ‡ §    ¶ ** † † ‡ ‡ 写真は、個人識別ができないように処理を行うこと。 例 目に入れる黒細線または眼球の黒塗り。 顔その他へのモザイク処理。</p>	

現行	変更案	備考
フィルム上の名前, 個人識別につながるその他の文字, 衣服の模様などの消去.	フィルム上の名前, 個人識別につながるその他の文字, 衣服の模様などの消去.	

## 6. 学術集会発表演題論文投稿規程

### 新旧対照表

現行	変更案	備考
<p>学術集会発表演題論文投稿規程</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>この規程は, 日本臨床整形外科学会雑誌 (略称, 日臨整誌) に掲載する学術集会発表演題論文の投稿について定める.</li> <li>学術集会発表演題論文は, 本規程に則り, オンライン投稿システムから投稿すること.</li> <li>様式第1は, オンライン投稿システムから投稿するときに, 論文とともに送信する.</li> <li>様式第2は, 指定されたシステムにより送信する.</li> <li>様式第3は, 本学会事務局まで別送する.</li> </ul> <p><b>1 定義, 著者資格</b></p> <p>本学会学術集会で発表した演題の内容をオンライン投稿システムから投稿するものである.</p> <p>主著者及び共著者は, 発表した演題の演者 (筆頭演者と共同演者) に限る.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>共著者は, 論文に実質的かつ知的に貢献し, 担当部分に責任を持てる者とし, 共著者の氏名は, 様式第1に論文への貢献度の高い順に記載すること.</li> <li>責任著者 (corresponding author) 1人を様式第1で明示すること.</li> <li>儀礼上のオーサーシップ (gift author, guest author など) は認められない.</li> </ol> <p><b>2 原稿の構成</b></p> <p>原稿は, 要旨 (和文), 本文, 付言 (必要な場合), 文献, 図表の表題, 図の説明文及び図表で構成する. 本文は, 緒言 (又は目的, 背</p>	<p>学術集会発表演題論文投稿規程</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>この規程は, 日本臨床整形外科学会雑誌 (略称, 日臨整誌) に掲載する学術集会発表演題論文の投稿について定める.</li> <li>学術集会発表演題論文は, 本規程に則り, オンライン投稿システムから投稿すること.</li> <li>様式第1は, <b>表紙に相当するものであり, オンライン投稿システムで入力する.</b></li> <li>様式第2は, 指定された別のシステムにより送信する.</li> <li>様式第3は, 本学会事務局まで別送する.</li> </ul> <p><b>1 定義, 著者資格</b></p> <p>本学会学術集会で発表した演題の内容をオンライン投稿システムから投稿するものである.</p> <p>主著者及び共著者は, 発表した演題の演者 (筆頭演者と共同演者) に限る.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>共著者は, 論文に実質的かつ知的に貢献し, 担当部分に<b>ついて</b>責任を持てる者とする. 共著者の氏名は, <b>オンライン投稿システム</b>に論文への貢献度の高い順に記載すること.</li> <li>責任著者 (corresponding author) <b>は1名とし, オンライン投稿システム</b>で明示すること.</li> <li>儀礼上のオーサーシップ (gift author, guest author など) は認められない.</li> </ol> <p><b>2 原稿の構成</b></p> <p>原稿は, <b>表紙</b>, 要旨 (和文), 本文, 付言 (必要な場合), 文献, 図表の表題, 図の説明文及び図表で構成する. 本文は, 緒言 (又は目</p>	<p>情報の記載先及び表紙に対する説明を記載した。</p> <p>表現を明確にした。</p> <p>表現を明確にした。</p> <p>情報の記載先を明記した。</p> <p>表現を明確にした。 情報の記載先を明記した。</p> <p>表紙を必須としたため追記した。</p>



現行	変更案	備考
<p>学会への著作権の譲渡に同意したものとみなす。</p> <p>2. 本学会の許諾なく、投稿以後、論文又は論文の著作権を使用してはならない。</p> <p>3. 主著者及び共著者は、自身の所属機関の機関リポジトリ、データベース、紀要、病院誌、記録集又はウェブサイトなどに、掲載された自身の論文（複写、発行された雑誌の別刷又は本学会ウェブサイトに掲示された電子ファイル）を、完全な形においてのみ、商用目的ではない場合に限り、出典と著作権関係を明示して掲載することができる。その際、様式第4-1（機関リポジトリ収載）にて本学会に連絡すること。</p> <p>4. 掲載された論文の全部又は一部を転載、改変して利用若しくは引用の範囲を超えて利用しようとする場合は、様式第4-2（転載許諾願い）により、本学会の許諾を得ること。</p> <p><b>7 他の刊行物などの利用及び著作権の侵害</b> 他の刊行物などの全部又は一部を転載、改変して利用若しくは引用の範囲を超えて利用しようとする場合は、主著者がその著作権者の許諾を得なければならない。</p> <p>1. 様式第3（転載許諾願い）にて著作権者の許諾を得、その文書又はその写しを投稿論文に添付すること。</p> <p>2. 論文文中に出典と許諾を明示すること。</p> <p>3. 著作権関係が不明なもの、許諾の有無が不明なものを含む論文は、掲載しない。</p> <p>4. 他者の著作権を侵害した場合は、主著者がそのすべての責任を負う。</p> <p><b>8 倫理</b> 文部科学省・厚生労働省「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」、ヘルシンキ宣言及びCIOMS International Ethical Guidelines for Health-related Research Involving Humans を遵</p>	<p>1. 主著者及び共著者全員が、本学会への著作権の譲渡に同意したものとみなす。</p> <p>2. 本学会の許諾なく、投稿以後、論文又は論文の著作権を使用してはならない。</p> <p>3. 主著者及び共著者は、自身の所属機関の機関リポジトリ、データベース、紀要、病院誌、記録集又はウェブサイトなどに、掲載された自身の論文（複写、発行された雑誌の別刷又は本学会ウェブサイトに掲示された電子ファイル）を、完全な形においてのみ、商用目的ではない場合に限り、出典と著作権関係を明示して掲載することができる。その際、様式第4-1（機関リポジトリ収載）にて本学会に連絡すること。</p> <p>4. 掲載された論文の全部又は一部を転載、改変して利用若しくは引用の範囲を超えて利用しようとする場合は、様式第4-2（転載許諾願い）により、本学会の許諾を得ること。</p> <p><b>7 他の刊行物などの利用及び著作権の侵害</b> 他の刊行物などの全部又は一部を転載、改変して利用若しくは引用の範囲を超えて利用しようとする場合は、主著者がその著作権者の許諾を得なければならない。</p> <p>1. 様式第3（転載許諾願い）にて著作権者の許諾を得、その文書又はその写しを<b>本学会に連絡すること。</b></p> <p>2. 論文文中に出典と許諾を明示すること。</p> <p>3. 著作権関係が不明なもの、許諾の有無が不明なものを含む論文は、掲載しない。</p> <p>4. 他者の著作権を侵害した場合は、主著者がそのすべての責任を負う。</p> <p><b>8 倫理</b> 文部科学省・厚生労働省・<b>経済産業省</b>「人を対象とする<b>生命科学</b>・医学系研究に関する倫理指針」、ヘルシンキ宣言及びCIOMS International Ethical Guideli</p>	<p>文章を校正した。</p> <p>文書の正式名称変更のため。</p>

現行	変更案	備考
<p>守ること。所属機関の倫理委員会又はそれに準じる機関の承認を得ることが望ましい。</p> <p><b>9 個人情報保護</b>            個人情報は、匿名化すること。匿名化が困難な場合は、文書による同意を得ること。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者の姓名やイニシャル、患者番号など、個人を特定できる情報を記載しないこと。</li> <li>2. 図や写真は、個人識別ができないように処理をすること。</li> </ol> <p><b>10 原稿の作成</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 原稿の文字数やデータ量などは、オンライン投稿システムの制約内であること。</li> <li>2. 図表は白黒（グレースケール）で作成すること。カラーの図表は、オンライン投稿システムの制約上、投稿できない場合がある。</li> <li>4. カラーで投稿された図表は、カラー情報を破棄して白黒（グレースケール）で印刷する。カラーのものを白黒（グレースケール）化した場合に判読できなくなる可能性があるため注意すること。図表の編集製版での修正はしない。</li> <li>4. 参考文献は、文献の記載の手引きに準じて記すこと。</li> </ol> <p><b>11 受付、査読、採否、掲載の変更、編集</b>            論文の掲載は、学会雑誌編集委員会で決定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 査読は、学術委員会と学会雑誌編集委員会で行う。</li> <li>2. 学会雑誌編集委員会は、字句の訂正、組版の修正などを行うとともに、主著者に原稿の修正を求めることができる。</li> <li>3. 学会雑誌編集委員会は、掲載を本学会会報に変更することができる。</li> <li>4. 学会雑誌編集委員会は、本雑誌に掲載した論文に問題が生じたときは、掲載を取り消すことができる。</li> </ol> <p><b>12 英文 abstract</b></p>	<p>nes for Health-related Research Involving Humans を遵守すること。所属機関の倫理委員会又はそれに準じる機関の承認を得ることが望ましい。</p> <p><b>9 個人情報保護</b>            個人情報は、匿名化すること。匿名化が困難な場合は、文書による同意を得ること。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者の姓名やイニシャル、患者番号など、個人を特定できる情報を記載しないこと。</li> <li>2. 図や写真は、個人識別ができないように処理をすること。</li> </ol> <p><b>10 原稿の作成</b></p> <p><del>1. 原稿の文字数やデータ量などは、オンライン投稿システムの制約内であること。</del></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 図表は白黒（グレースケール）で作成すること。カラーの図表は、オンライン投稿システムの制約上、投稿できない場合がある。</li> <li>2. カラーで投稿された図表は、カラー情報を破棄して白黒（グレースケール）で印刷する。カラーのものを白黒（グレースケール）化した場合に判読できなくなる可能性があるため注意すること。図表の編集製版での修正はしない。</li> <li>3. 参考文献は、文献の記載の手引きに準じて記すこと。</li> </ol> <p><b>11 受付、査読、採否、掲載の変更、編集</b>            論文の掲載は、学会雑誌編集委員会で決定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 査読は、学術委員会と学会雑誌編集委員会で行う。</li> <li>2. 学会雑誌編集委員会は、字句の訂正、組版の修正などを行うとともに、主著者に原稿の修正を求めることができる。</li> <li>3. 学会雑誌編集委員会は、掲載を本学会会報に変更することができる。</li> <li>4. 学会雑誌編集委員会は、本雑誌に掲載した論文に問題が生じたときは、掲載を取り消すことができる。</li> </ol> <p><b>12 英文 abstract</b></p>	<p>文字数は項目3で規定している また、現システムでは入力文字数を制限できないため削除 番号修正</p> <p>番号修正</p> <p>番号修正</p>

現行	変更案	備考
<p>英文 abstract は、和文要旨から本学会で英訳する（費用は本学会負担）。</p> <p><b>13 著者校正</b> 著者校正はゲラ第2稿で1回のみ行い、著者校正では内容の変更はできない。</p> <p><b>14 掲載料</b> 掲載料は無料とする。</p> <p><b>15 別刷</b> 別刷は、投稿時に著者が希望する場合に、30部以上10部単位で刊行時に製作し、30部を超えるものの費用は主著者負担とする（別表参照）。</p> <p><b>16 原稿の作成と提出</b> 投稿は、日本臨床整形外科学会ウェブサイト (https://jcoa.gr.jp/) の専用投稿サイト「Scholar One Manuscripts」からユーザー登録の上、「新規投稿」から著者（投稿者）としてログインし、必要事項を入力したうえで、必要なファイルを提出すること。その際には、オンライン投稿マニュアル及び電子投稿の手引きを注意深く確認すること。</p> <p>2019年5月31日制定 2024年4月21日改定 2025年4月20日改定</p>	<p>英文 abstract は、和文要旨から本学会で英訳する（費用は本学会負担）。</p> <p><b>13 著者校正</b> 著者校正はゲラ第2稿で1回のみ行い、著者校正では内容の変更はできない。</p> <p><b>14 掲載料</b> 掲載料は無料とする。</p> <p><b>15 別刷</b> 別刷は、投稿時に著者が希望する場合に、30部以上10部単位で刊行時に製作し、30部を超えるものの費用は主著者負担とする（<b>オンライン投稿システム上で記入</b>、別表参照）。</p> <p><b>16 原稿の作成と提出</b> 投稿は、日本臨床整形外科学会ウェブサイト (https://jcoa.gr.jp/) の専用投稿サイト「Scholar One Manuscripts」からユーザー登録の上、「新規投稿」から著者（投稿者）としてログインし、必要事項を入力したうえで、必要なファイルを提出すること。その際には、オンライン投稿マニュアル及び電子投稿の手引きを注意深く確認すること。</p> <p>2019年5月31日制定 2024年4月21日改定 2025年4月20日改定 <b>2026年〇月〇日改訂</b></p>	<p>情報の記載先を明記した。 国際化プロジェクト論文・和文一般論文の表現と同じにした。</p>

## 7. 電子投稿の手引き

### 新旧対照表

現行	変更案	備考
<p>電子投稿の手引き</p> <p>国際化プロジェクト論文、和文一般論文、学術集会発表演題論文</p> <p>・以下の各項の注意に沿って投稿原稿を作成してください。 ・受け付けることができない場合又は原稿の作り直しを要する</p>	<p>電子投稿の手引き</p> <p>国際化プロジェクト論文、和文一般論文、学術集会発表演題論文</p> <p>・以下の各項の注意に沿って投稿原稿を作成してください。 ・受け付けることができない場合又は原稿の作り直しを要する</p>	

現行	変更案	備考
<p>場合があります。</p> <p><b>1 使用するソフトウェア</b></p> <p>1. 文章、表及び線画である図（グラフ、チャートなど）は、以下のソフトウェアのいずれかで作成してください。 Microsoft 社製 Office Apple 社製 iWork® これら以外のソフトウェアで作成する場合は、学会雑誌編集委員会に相談してください。</p> <p>2. 電子ファイルの再現に問題が生じる場合があります、作り直しを求めることがあります。 再現性に支障を来す機種固有の機能（マクロなど）を持たせないようにしてください。</p> <p>3. PDF (Portable Document Format) 形式のファイルを投稿する場合でも、Office 又は iWork®のファイルもアップロードしてください。</p> <p>4. 紙原稿を画像として電子化したものは、受け付けることができません（手書きの線画やイラストを除く）。</p> <p><b>2 文章の電子ファイル</b></p> <p>文章の原稿は、Microsoft 社製 Word®又は Apple 社製 Pages®を用い、以下の設定で作成してください。</p> <p>A4 版、縦置き、横書き。 1 行あたり全角 40 文字前後、 1 ページあたり 40 行前後。 文字の大きさは 12 ポイント前後。 各ページの下にページ番号を付記。</p> <p><b>3 文字</b></p> <p>1. アルファベット、算用数字、英文記号は、1 バイト文字（半角文字）を用いてください。</p> <p>2. ローマ数字や丸の中の英数字、度量衡の単位の記号などを使用する場合は、機種依存文字の使用を避けてください。 ローマ数字は、アルファベットの 1 バイト文字 I, V, X, i, v, x で記載。 度量衡の記号は、c, m, k, g, l などのアルファベットの 1</p>	<p>場合があります。</p> <p><b>1 使用するソフトウェア</b></p> <p>1. 文章、表及び線画である図（グラフ、チャートなど）は、以下のソフトウェアのいずれかで作成してください。 Microsoft 社製 Office Apple 社製 iWork® これら以外のソフトウェアで作成する場合は、学会雑誌編集委員会に相談してください。</p> <p>2. 電子ファイルの再現に問題が生じる場合があります、作り直しを求めることがあります。 再現性に支障を来す機種固有の機能（マクロなど）を持たせないようにしてください。</p> <p>3. PDF (Portable Document Format) 形式のファイルを投稿する場合でも、Office 又は iWork®のファイルもアップロードしてください。</p> <p>4. 紙原稿を画像として電子化したものは、受け付けることができません（手書きの線画やイラストを除く）。</p> <p><b>2 文章の電子ファイル</b></p> <p>文章の原稿は、Microsoft 社製 Word®又は Apple 社製 Pages®を用い、以下の設定で作成してください。</p> <p>A4 版、縦置き、横書き。 1 行あたり全角 40 文字前後、 1 ページあたり 40 行前後。 文字の大きさは 12 ポイント前後。 各ページの下にページ番号を付記。</p> <p><b>3 文字</b></p> <p>1. アルファベット、算用数字、英文記号は、1 バイト文字（半角文字）を用いてください。</p> <p>2. ローマ数字や丸の中の英数字、度量衡の単位の記号などを使用する場合は、機種依存文字の使用を避けてください。 ローマ数字は、アルファベットの 1 バイト文字 I, V, X, i, v, x で記載。 度量衡の記号は、c, m, k, g, l などのアルファベットの 1</p>	

現行	変更案	備考
<p>バイト文字で記載。</p> <p>3. 半角のカタカナ及び半角の日本語記号は使用しないでください。</p> <p>4. 人名などで特定の字体で表記する必要がある場合は、論文の末尾にどの字体の漢字を使用しているかを注記してください。</p> <p>例 葛飾（論文の末尾に以下のように記載）</p> <p>4ページ6行目の「葛」は、下がかぎの中に「人」の字の「葛」。</p> <p><b>4 写真、画像の電子ファイル</b> X線写真、症例などの写真及び画像は、白黒（グレースケール）とします。 カラーでの掲載が必要な場合は、原稿にその旨を明記してください。この場合、著者が製作費を負担するものとします。 写真や画像の電子ファイルは、圧縮したり、Microsoft 社製 Word®、PowerPoint® などのファイル上に貼り付けたりせず、オリジナルのものを1点ずつ別々に送稿してください。 各ファイルには、図表番号と同じファイル名を付けてください。 例 fig1a.tif</p> <p>1. 1点あたりのデータ量が少ない場合、印刷に適さず、受け付けることができません。</p> <p>2. 個人情報の匿名化処理や文字、記号、線などの書き込みが必要な場合は、加工前のオリジナルファイルと加工後のファイルの両方を送稿してください。</p> <p>3. 写真や画像を組み合わせたレイアウトを作成する場合、Microsoft 社製 Word® や PowerPoint® などのソフトウェア又はPDF形式のファイルに貼り付けてもかまいません。ただし、オリジナルのデータ量を保持した状態で、鮮明かつ精細な画像として版下に使用できるように貼り付けてください。</p> <p><b>5 図表の電子ファイル</b> 白黒（グレースケール）とし、</p>	<p>バイト文字で記載。</p> <p>3. 半角のカタカナ及び半角の日本語記号は使用しないでください。</p> <p>4. 人名などで特定の字体で表記する必要がある場合は、論文の末尾にどの字体の漢字を使用しているかを注記してください。</p> <p>例 葛飾（論文の末尾に以下のように記載）</p> <p>4ページ6行目の「葛」は、下がかぎの中に「人」の字の「葛」。</p> <p><b>4 写真、画像の電子ファイル</b> X線写真、症例などの写真及び画像は、白黒（グレースケール）とします。 カラーでの掲載が必要な場合は、原稿にその旨を明記してください。この場合、著者が製作費を負担するものとします。 写真や画像の電子ファイルは、圧縮したり、Microsoft 社製 Word®、PowerPoint® などのファイル上に貼り付けたりせず、オリジナルのものを1点ずつ別々に送稿してください。 各ファイルには、図表番号と同じファイル名を付けてください。 例 fig1a.tif</p> <p>1. 1点あたりのデータ量が少ない場合、印刷に適さず、受け付けることができません。</p> <p>2. 個人情報の匿名化処理や文字、記号、線などの書き込みが必要な場合は、加工前のオリジナルファイルと加工後のファイルの両方を送稿してください。</p> <p>3. 写真や画像を組み合わせたレイアウトを作成する場合、Microsoft 社製 Word® や PowerPoint® などのソフトウェア又はPDF形式のファイルに貼り付けてもかまいません。ただし、オリジナルのデータ量を保持した状態で、鮮明かつ精細な画像として版下に使用できるように貼り付けてください。</p> <p><b>5 図表の電子ファイル</b> 白黒（グレースケール）とし、</p>	

現行	変更案	備考
<p>背景色は特に必要でない限り白（又は設定なし）としてください。</p> <p>カラーの掲載が必要な場合は、主著者が製作費を負担するものとします。</p> <p>フォントは、<b>太字（ボールド、bold）</b>を使用しないでください（印刷時に文字が潰れる可能性があります）。</p> <p>手書きの線画やイラスト、紙の刊行物をスキャナで取り込む場合は、以下の設定を推奨します。</p> <p>グレースケール、300dpi (dot per inch) 以上の精細度でスキャン。</p> <p>TIFF 形式の場合は非圧縮に設定。</p> <p>JPEG 形式・PDF 形式の場合は圧縮率を最低（最高画質）に設定。</p> <p>図表の各ファイルには、図表番号と同じファイル名を付けてください。</p> <p>例 fig2b. jpg tab3c. xlsx</p> <p><b>6 送稿</b></p> <p>投稿は、日本臨床整形外科学会ウェブサイト (<a href="https://jcoa.gr.jp/">https://jcoa.gr.jp/</a>) の専用投稿サイト「Scholar One Manuscripts」からユーザー登録の上、「新規投稿」から著者（投稿者）としてログインし、必要事項の入力の上、必要なファイルの提出を行ってください。その際には、オンライン投稿マニュアル及び本手引きを注意深く確認してください。</p> <p>利益相反 (COI) 自己申告書（様式第 2）は、別の指定されたシステムでの提出が必要です。詳細は、本学会事務局 まで電子メールでお問い合わせください。</p> <p>問い合わせ先 office@jcoa.sakura.ne.jp</p>	<p>背景色は特に必要でない限り白（又は設定なし）としてください。</p> <p>カラーの掲載が必要な場合は、主著者が製作費を負担するものとします。</p> <p>フォントは、<b>太字（ボールド、bold）</b>を使用しないでください（印刷時に文字が潰れる可能性があります）。</p> <p>手書きの線画やイラスト、紙の刊行物をスキャナで取り込む場合は、以下の設定を推奨します。</p> <p>グレースケール、300dpi (dot per inch) 以上の精細度でスキャン。</p> <p>TIFF 形式の場合は非圧縮に設定。</p> <p>JPEG 形式・PDF 形式の場合は圧縮率を最低（最高画質）に設定。</p> <p>図表の各ファイルには、図表番号と同じファイル名を付けてください。</p> <p>例 fig2b. jpg tab3c. xlsx</p> <p><b>6 送稿</b></p> <p>投稿は、日本臨床整形外科学会ウェブサイト (<a href="https://jcoa.gr.jp/">https://jcoa.gr.jp/</a>) の専用投稿サイト「Scholar One Manuscripts」からユーザー登録の上、「新規投稿」から著者（投稿者）としてログインし、必要事項の入力の上、必要なファイルの提出を行ってください。その際には、オンライン投稿マニュアル及び本手引きを注意深く確認してください。</p> <p>利益相反 (COI) 自己申告書（様式第 2）は、<b>別の</b>指定された<b>別の</b>システムでの提出が必要です。詳細は、本学会事務局 まで電子メールでお問い合わせください。</p> <p>問い合わせ先 office@jcoa.sakura.ne.jp</p>	<p>用語の統一</p>

## 8. 文献の記載の手引き (国際化プロジェクト論文, 和文一般論文, 学術集会発表演題論文)

新旧対照表

現行	変更案	備考
<p>文献の記載の手引き</p> <p>国際化プロジェクト論文, 和文一般論文, 学術集会発表演題論文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文献は, 本文中の引用順に記載し, 参照個所には文献番号を記入してください。</li> <li>・文献は, 以下の例示に準じ, 後から収集・追跡できるに足る情報を誤りなく記載してください。</li> <li>・同一著者の文献が複数ある場合は, 発表順に並べてください。</li> <li>・著者が複数の場合は, 主著者名のみを記し, 共著者名は「et al.」又は「ほか」と表記してください。</li> <li>・インターネット上の情報を引用する場合は, 閲覧日と URL/URI (Uniform Resource Locator/Uniform Resource Indicator), DOI (Digital Object Identifier) やデータベース上の符号 (Cochrane Database の CD, PubMed の PMID など) を記載してください。</li> <li>・近刊の本雑誌掲載論文の記載方法も参考にしてください。</li> <li>・ここに例示する以外の記載方法については, ICMJE Recommendations に示されている形式に準じてください。</li> </ul> <p><b>1 雑誌</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雑誌名の省略は, その発行者による正式な略名を用いてください。</li> <li>・著者名. 表題. 誌名. 発行年; 巻 (必要な場合は号, suppl など): 先頭頁 - 最終頁。</li> <li>・論文の表題名は, 1 文字目以外は, 原則としてすべて小文字を使用してください。ただし, 固有名詞や原語において大文字表記が必要な場合は例外とします。</li> </ul> <p>1) 久保田亘ほか. 運動器不安定症に対する運動機能の向上 - 通所リハビリテーションの取り組みから-. 日臨整誌. 2011; 36: 85-92.</p> <p>2) 木村雅史. 新鮮膝前十字靭帯断裂に対する新保存療法 - 保存的修復法について -. MB Orth</p>	<p>文献の記載の手引き</p> <p>国際化プロジェクト論文, 和文一般論文, 学術集会発表演題論文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文献は, 本文中の引用順に記載し, 参照個所には文献番号を記入してください。</li> <li>・文献は, 以下の例示に準じ, 後から収集・追跡できるに足る情報を誤りなく記載してください。</li> <li>・同一著者の文献が複数ある場合は, 発表順に並べてください。</li> <li>・著者が複数の場合は, 主著者名のみを記し, 共著者名は「et al.」又は「ほか」と表記してください。</li> <li>・インターネット上の情報を引用する場合は, 閲覧日と URL/URI (Uniform Resource Locator/Uniform Resource Indicator), DOI (Digital Object Identifier) やデータベース上の符号 (Cochrane Database の CD, PubMed の PMID など) を記載してください。</li> <li>・近刊の本雑誌掲載論文の記載方法も参考にしてください。</li> <li>・ここに例示する以外の記載方法については, ICMJE Recommendations に示されている形式に準じてください。</li> </ul> <p><b>1 雑誌</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雑誌名の省略は, その発行者による正式な略名を用いてください。</li> <li>・著者名. 表題. 誌名. 発行年; 巻 (必要な場合は号, suppl など): 先頭頁 - 最終頁。</li> <li>・論文の表題名は, 1 文字目以外は, 原則としてすべて小文字を使用してください。ただし, 固有名詞や原語において大文字表記が必要な場合は例外とします。</li> </ul> <p>1) 久保田亘ほか. 運動器不安定症に対する運動機能の向上 - 通所リハビリテーションの取り組みから-. 日臨整誌. 2011; 36: 85-92.</p> <p>2) 木村雅史. 新鮮膝前十字靭帯断裂に対する新保存療法 - 保存的修復法について -. MB Orth</p>	

現行	変更案	備考
<p>op. 1998; 11 (1):45-50.</p> <p>3) 八木茂典. 肩の新しい解剖知見に基づいた機能評価とエクササイズ. Sportsmedicine. 2009; 21 (no.9,11月号, 通号115): 10-5.</p> <p>4) Rosenthal RE, et al. Osteomyelitis of the symphysis pubis: a separate disease from osteitis pubis. Report of three cases and review of the literature. J Bone Joint Surg Am. 1982; 64: 123-8.</p> <p>5) Staubli AE, et al. TomoFix: a new LCP-concept for open wedge osteotomy of the medial proximal tibia - early results in 92 cases. Injury. 2003; 34 (suppl 2): B55-62.</p> <p><b>2 単行本</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・著者名. 表題. 書名. 版. 編者 (訳者など). 発行地: 発行者 (社); 発行年. 先頭頁 - 最終頁.</li> </ul> <p>1) 新井貞男. 脊椎の診察法. 運動器スペシャリストのための整形外科外来診療の実際. 日本臨床整形外科学会編. 東京: 中山書店; 2014. p.2-4.</p> <p>2) Neumann DA. 体幹の筋: 筋間の機能的相互作用. 筋骨格系のキネシオロジー. 原著第2版. 島田智明ほか監訳. 東京: 医歯薬出版株式会社; 2012. p.435-40.</p> <p>3) Lindquist TR. Three-dimensional Magnetic Resonance Rendering Techniques. Magnetic Resonance Imaging in Orthopaedics &amp; Sports Medicine. Stoller DW ed. Philadelphia: J.B. Lippincott Company; 1993. p.25-30.</p> <p><b>3 学会抄録, 学会や会議での発表, 講演など</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会議名, 日時, 開催地, 開催場所など, 後から情報を追跡できるに足る事項を記載してください.</li> <li>・雑誌の別冊や抄録集に掲載されている場合は, それら刊行物の</li> </ul>	<p>op. 1998; 11 (1):45-50.</p> <p>3) 八木茂典. 肩の新しい解剖知見に基づいた機能評価とエクササイズ. Sportsmedicine. 2009; 21 (no.9,11月号, 通号115): 10-5.</p> <p>4) Rosenthal RE, et al. Osteomyelitis of the symphysis pubis: a separate disease from osteitis pubis. Report of three cases and review of the literature. J Bone Joint Surg Am. 1982; 64: 123-8.</p> <p>5) Staubli AE, et al. TomoFix: a new LCP-concept for open wedge osteotomy of the medial proximal tibia - early results in 92 cases. Injury. 2003; 34 (suppl 2): B55-62.</p> <p><b>2 単行本</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・著者名. 表題. 書名. 版. 編者 (訳者など). 発行地: 発行者 (社); 発行年. 先頭頁 - 最終頁.</li> </ul> <p>1) 新井貞男. 脊椎の診察法. 運動器スペシャリストのための整形外科外来診療の実際. 日本臨床整形外科学会編. 東京: 中山書店; 2014. p.2-4.</p> <p>2) Neumann DA. 体幹の筋: 筋間の機能的相互作用. 筋骨格系のキネシオロジー. 原著第2版. 島田智明ほか監訳. 東京: 医歯薬出版株式会社; 2012. p.435-40.</p> <p>3) Lindquist TR. Three-dimensional Magnetic Resonance Rendering Techniques. Magnetic Resonance Imaging in Orthopaedics &amp; Sports Medicine. Stoller DW ed. Philadelphia: J.B. Lippincott Company; 1993. p.25-30.</p> <p><b>3 学会抄録, 学会や会議での発表, 講演など</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会議名, 日時, 開催地, 開催場所など, 後から情報を追跡できるに足る事項を記載してください.</li> <li>・雑誌の別冊や抄録集に掲載されている場合は, それら刊行物の</li> </ul>	

現行	変更案	備考
<p>文献情報を記載してください。</p> <p>1) 太田邦昭ほか、腕支え上体起し（パビーポジション）と腹筋運動の組み合わせによる効果について。第23回日本臨床整形外科学会学術集会。横浜市。パシフィコ横浜。2010年7月18～19日。第23回日本臨床整形外科学会学術集会抄録集。2010. p.167.</p> <p>2) Kikuchi H, et al. The CT X-2 value compare knee joint osteoarthritis and Japanese standerd. Annual European Congress of Rheumatology of the European League Against Rheumatism. Le Palais de Congrès de Paris, Paris, France. 11-14 June 2008. Ann Rheum Dis. 2008; 67 (suppl II): 593.</p> <p><b>4 診断基準、評価基準やガイドラインなど</b></p> <p>・論文中で言及された診断基準、評価基準やガイドラインなどは、原典又は信頼できる総説を明示してください。</p> <p>1) 日本骨代謝学会. 原発性骨粗鬆症の診断基準(2012年度改訂版) [Internet]. [cited 2017 Dec 15]. Available from: <a href="http://jsbmr.umin.jp/guide/pdf/g-guideline.pdf">http://jsbmr.umin.jp/guide/pdf/g-guideline.pdf</a></p> <p>2) Kellgren LH, et al. Radiological assessment of osteo-arthrosis. Ann rheum Dis. 1957; 16: 494-502 [Internet]. [cited 2017 Nov 25]. Available from: <a href="http://ard.bmj.com/content/17/4/388.full.pdf">http://ard.bmj.com/content/17/4/388.full.pdf</a></p> <p><b>5 官公庁や団体からの発表、資料など</b></p> <p>1) 厚生労働省. 要介護者等の状況. 平成22年国民生活基礎調査の概況. 2011年7月12日. p.30 [Internet]. [cited 2017 Dec 15]. Available from: <a href="http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa10/dl/gaikyou.pdf">http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa10/dl/gaikyou.pdf</a></p> <p><b>6 新聞その他の報道、データ</b></p>	<p>文献情報を記載してください。</p> <p>1) 太田邦昭ほか、腕支え上体起し（パビーポジション）と腹筋運動の組み合わせによる効果について。第23回日本臨床整形外科学会学術集会。横浜市。パシフィコ横浜。2010年7月18～19日。第23回日本臨床整形外科学会学術集会抄録集。2010. p.167.</p> <p>2) Kikuchi H, et al. The CT X-2 value compare knee joint osteoarthritis and Japanese standerd. Annual European Congress of Rheumatology of the European League Against Rheumatism. Le Palais de Congrès de Paris, Paris, France. 11-14 June 2008. Ann Rheum Dis. 2008; 67 (suppl II): 593.</p> <p><b>4 診断基準、評価基準やガイドラインなど</b></p> <p>・論文中で言及された診断基準、評価基準やガイドラインなどは、原典又は信頼できる総説を明示してください。</p> <p>1) 日本骨代謝学会. 原発性骨粗鬆症の診断基準(2012年度改訂版) [Internet]. [cited 2017 Dec 15]. Available from: <a href="http://jsbmr.umin.jp/guide/pdf/g-guideline.pdf">http://jsbmr.umin.jp/guide/pdf/g-guideline.pdf</a></p> <p>2) Kellgren LH, et al. Radiological assessment of osteo-arthrosis. Ann rheum Dis. 1957; 16: 494-502 [Internet]. [cited 2017 Nov 25]. Available from: <a href="http://ard.bmj.com/content/17/4/388.full.pdf">http://ard.bmj.com/content/17/4/388.full.pdf</a></p> <p><b>5 官公庁や団体からの発表、資料など</b></p> <p>1) 厚生労働省. 要介護者等の状況. 平成22年国民生活基礎調査の概況. 2011年7月12日. p.30 [Internet]. [cited 2017 Dec 15]. Available from: <a href="http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa10/dl/gaikyou.pdf">http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa10/dl/gaikyou.pdf</a></p> <p><b>6 新聞その他の報道、データ</b></p>	

現行	変更案	備考
<p>ース、ウェブページなどのインターネット上の情報</p> <p>1) 橋本圭子. 警察への医療事故の届け出, 2007 年は 3 割増. m3.com 医療維新. 2008 年 6 月 4 日. [Internet]. [cited 2017 Nov 25]. Available from: <a href="https://www.m3.com/open/iryoshin/article/87241/">https://www.m3.com/open/iryoshin/article/87241/</a></p> <p>2) Harato K, et al. Pseudogout at the knee joint will frequently occur after hip fracture and lead to the knee pain in the early postoperative period. Journal of Orthopaedic Surgery and Res. 2015; 10: 4. doi:10.1186/s13018-014-0145-9 [Internet]. [cited 2017 Nov 25]. Available from: <a href="http://www.josr-online.com/content/pdf/s13018-014-0145-9.pdf">http://www.josr-online.com/content/pdf/s13018-014-0145-9.pdf</a></p> <p>7 判決文, 法令</p> <p>1) 大阪高等裁判所. 昭和 63(ネ)1052. 1989 年 5 月 12 日. 判例時報. 1990; 1340: 132-4.</p> <p>2) 医師法. 昭和 23 年 7 月 30 日 法律第 201 号. 最終改正 平成 19 年 6 月 27 日 法律第 96 号 [Internet]. [cited 2015 Jan 18]. Available from: <a href="http://law.e-gov.go.jp/htmldata/S23/S23H0201.html">http://law.e-gov.go.jp/htmldata/S23/S23H0201.html</a></p> <p>8 薬品, 機器の添付文書</p> <p>・製品によって, 登録商標記号®が付く位置がさまざまであることに留意してください.</p> <p>1) 科研製薬株式会社. アルツデイスポ® 関節注 25mg. 添付文書. 2016 年 7 月改訂 (第 17 版) [Internet]. [cited 2017 Nov 25]. Available from: <a href="http://www.kaken.co.jp/medical/tenbun/artzdispo/pdf/artzdispo_201607.pdf">http://www.kaken.co.jp/medical/tenbun/artzdispo/pdf/artzdispo_201607.pdf</a></p>	<p>ース、ウェブページなどのインターネット上の情報</p> <p>1) 橋本圭子. 警察への医療事故の届け出, 2007 年は 3 割増. m3.com 医療維新. 2008 年 6 月 4 日. [Internet]. [cited 2017 Nov 25]. Available from: <a href="https://www.m3.com/open/iryoshin/article/87241/">https://www.m3.com/open/iryoshin/article/87241/</a></p> <p>2) Harato K, et al. Pseudogout at the knee joint will frequently occur after hip fracture and lead to the knee pain in the early postoperative period. Journal of Orthopaedic Surgery and Res. 2015; 10: 4. doi:10.1186/s13018-014-0145-9 [Internet]. [cited 2017 Nov 25]. Available from: <a href="http://www.josr-online.com/content/pdf/s13018-014-0145-9.pdf">http://www.josr-online.com/content/pdf/s13018-014-0145-9.pdf</a></p> <p>7 判決文, 法令</p> <p>1) 大阪高等裁判所. 昭和 63(ネ)1052. 1989 年 5 月 12 日. 判例時報. 1990; 1340: 132-4.</p> <p>2) 医師法. 昭和 23 年 7 月 30 日 法律第 201 号. 最終改正 平成 19 年 6 月 27 日 法律第 96 号 [Internet]. [cited 2015 Jan 18]. Available from: <a href="http://law.e-gov.go.jp/htmldata/S23/S23H0201.html">http://law.e-gov.go.jp/htmldata/S23/S23H0201.html</a></p> <p>8 薬品, 機器の添付文書</p> <p>・製品によって, 登録商標記号®が付く位置がさまざまであることに留意してください.</p> <p>1) 科研製薬株式会社. アルツデイスポ® 関節注 25mg. 添付文書. 2016 年 7 月改訂 (第 17 版) [Internet]. [cited 2017 Nov 25]. Available from: <a href="http://www.kaken.co.jp/medical/tenbun/artzdispo/pdf/artzdispo_201607.pdf">http://www.kaken.co.jp/medical/tenbun/artzdispo/pdf/artzdispo_201607.pdf</a></p>	

## 9. 文献の添付の手引き (国際化プロジェクト論文, 和文一般論文)

新旧対照表

現行	変更案	備考
<p>文献の添付の手引き</p> <p>国際化プロジェクト論文, 和文一般論文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文献は, 適切に参照され, 文献情報が正しく記載されていることが必要です. 文献情報のほか, 引用の妥当性や著作権などの確認が求められた場合の対応のため, 文献のコピーの添付をお願いしています.</li> <li>・参考に挙げられたすべての文献について, 少なくとも最初のページのコピーを添付してください.</li> <li>・最初のページで文献情報が確認できない場合(本の中の一節など)は, 以下の例示に準じて, 文献情報を得るために必要な部分のコピーも添付してください.</li> <li>・学会や会議での発表, 講演, 私信, 放送, インターネット上から削除されたウェブページなどはこの限りではありませんが, 以下の例示に従い, 可能な限り情報の出典を明確にしてください.</li> <li>・文献を入手せずに PubMed のウェブページのコピーで済ませることは避けてください.</li> </ul> <p>・添付が困難な事例がある場合は, 投稿前に学会雑誌編集委員会に相談してください.</p> <p><b>1 雑誌</b> 各論文の最初のページは必須です. すべてのページが揃っていれば, より望ましいです.</p> <p><b>2 単行本</b> 該当部分の最初のページに加え, 目次, 表紙, 扉, 標題紙, 奥付など, 刊行情報が分かる部分は必須です. 該当部分のページがすべて揃っていれば, より望ましいです.</p> <p><b>3 学会抄録, 学会や会議での発表, 講演など</b> 抄録集の該当ページとともに, 表紙又は扉, 標題紙などで開催情報が分かる部分を添付してください.</p>	<p>文献の添付の手引き</p> <p>国際化プロジェクト論文, 和文一般論文</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文献は, 適切に参照され, 文献情報が正しく記載されていることが必要です. 文献情報のほか, 引用の妥当性や著作権などの確認が求められた場合の対応のため, 文献のコピーの添付をお願いしています.</li> <li>・参考に挙げられたすべての文献について, 少なくとも最初のページのコピーを添付してください.</li> <li>・最初のページで文献情報が確認できない場合(本の中の一節など)は, 以下の例示に準じて, 文献情報を得るために必要な部分のコピーも添付してください.</li> <li>・学会や会議での発表, 講演, 私信, 放送, インターネット上から削除されたウェブページなどはこの限りではありませんが, 以下の例示に従い, 可能な限り情報の出典を明確にしてください.</li> <li>・文献を入手せずに PubMed のウェブページのコピーで済ませることは避けてください.</li> </ul> <p>・添付が困難な事例がある場合は, 投稿前に学会雑誌編集委員会に相談してください.</p> <p><b>1 雑誌</b> 各論文の最初のページは必須です. すべてのページが揃っていれば, より望ましいです.</p> <p><b>2 単行本</b> 該当部分の最初のページに加え, 目次, 表紙, 扉, 標題紙, 奥付など, 刊行情報が分かる部分は必須です. 該当部分のページがすべて揃っていれば, より望ましいです.</p> <p><b>3 学会抄録, 学会や会議での発表, 講演など</b> 抄録集の該当ページとともに, 表紙又は扉, 標題紙などで開催情報が分かる部分を添付してください.</p>	

現行	変更案	備考
<p>さい。会議の場合は、プログラム、ポスターなどで開催情報と当該の発表が分かるものも添付してください。</p> <p><b>4 診断基準、評価基準やガイドラインなど</b> 雑誌に掲載されたものは、雑誌に準じてください。単行本や冊子の形のもの、単行本に準じてください。</p> <p><b>5 官公庁や団体からの発表、資料など</b> 発行者や発行日が分かる部分と、文献の少なくとも最初のページのコピーを添付してください。</p> <p><b>6 新聞その他の報道、オンラインジャーナル、データベース、ウェブページなどのインターネット上の情報</b> 当該の文献の少なくとも最初のページ、発行者や日付情報が分かる部分及び当該のデータを収載したデータベースの収載情報が分かる部分を添付してください。</p> <p><b>7 判決文、法令</b> 1. 裁判所の裁判例情報のウェブページ、判例雑誌の当該部分又は判決文の原本において、事件番号、事件名、裁判年月日、裁判所名、部などが記載されている部分を添付してください。 2. 政府機関のウェブサイトで閲覧できる当該法令のウェブページを添付してください。</p> <p><b>8 薬品、機器の添付文書</b> 各社又は独立行政法人医薬品医療機器総合機構の医療用医薬品の添付文書情報のウェブページにある添付文書のコピーでも構いません。</p>	<p>さい。会議の場合は、プログラム、ポスターなどで開催情報と当該の発表が分かるものも添付してください。</p> <p><b>4 診断基準、評価基準やガイドラインなど</b> 雑誌に掲載されたものは、雑誌に準じてください。単行本や冊子の形のもの、単行本に準じてください。</p> <p><b>5 官公庁や団体からの発表、資料など</b> 発行者や発行日が分かる部分と、文献の少なくとも最初のページのコピーを添付してください。</p> <p><b>6 新聞その他の報道、オンラインジャーナル、データベース、ウェブページなどのインターネット上の情報</b> 当該の文献の少なくとも最初のページ、発行者や日付情報が分かる部分及び当該のデータを収載したデータベースの収載情報が分かる部分を添付してください。</p> <p><b>7 判決文、法令</b> 1. 裁判所の裁判例情報のウェブページ、判例雑誌の当該部分又は判決文の原本において、事件番号、事件名、裁判年月日、裁判所名、部などが記載されている部分を添付してください。 2. 政府機関のウェブサイトで閲覧できる当該法令のウェブページを添付してください。</p> <p><b>8 薬品、機器の添付文書</b> 各社又は独立行政法人医薬品医療機器総合機構の医療用医薬品の添付文書情報のウェブページにある添付文書のコピーでも構いません。</p>	

## 9. 様式集

新旧対照表

現行	変更案	備考
<p>様式集</p> <p>様式第1について [国際化プロジェクト論文, 和文一般論文, 学術集会発表演題論文] 同等の書式のものでもかまいません。□は該当するものに✓の記入又は黒塗してください。</p> <p>1 投稿区分 国際化プロジェクト論文, 和文一般論文, 学術集会発表論文又はその他(レターなど)の字数, 図表点数を確認のうえ, 該当する区分にチェックしてください。 注 原則として, 論文は国際化プロジェクト論文の区分で投稿してください。</p> <p>政策, 経済, 法制度などで和文での発表を希望する場合と, 著者が英文翻訳を希望しない場合は, 従来同様の論文投稿である和文一般論文の区分で投稿してください。</p> <p>2 論文の題名(和文及び英文) 原則として略語の使用は避けてください。学術集会での演題名と異なってもかまいません。</p> <p>英文は, 先頭は大文字, 固有名詞や商品名など以外は小文字で始め, 末尾にピリオドは付けません。 例 A simple protocol for preventing falls and fractures in elderly individuals</p> <p>3 著者名, 共著者名(和文及び英文), 責任著者, 会員非会員の別 英文表記はヘボン式, 姓名の順で, 姓をすべて大文字で表記してください(例 SEIKEI Taro)。</p> <p>責任著者(corresponding author) 1人にチェックしてください(主著者が兼ねてかまいません)。 ただし, 共著者が書ききれない場合, 様式第1の表記方法で別の</p>	<p>様式集</p> <p>様式第1について [国際化プロジェクト論文, 和文一般論文, 学術集会発表演題論文] <b>オンライン投稿システムにて以下の項目を入力してください。</b></p> <p>1 投稿区分 国際化プロジェクト論文, 和文一般論文, 学術集会発表論文又はその他(レターなど)の字数, 図表点数を確認のうえ, 該当する区分にチェックしてください。 注 原則として, 論文は国際化プロジェクト論文の区分で投稿してください。</p> <p>政策, 経済, 法制度などで和文での発表を希望する場合と, 著者が英文翻訳を希望しない場合は, 従来同様の論文投稿である和文一般論文の区分で投稿してください。</p> <p>2 論文の題名(和文及び英文) 原則として略語の使用は避けてください。学術集会での演題名と異なってもかまいません。</p> <p>英文は, 先頭は大文字, 固有名詞や商品名など以外は小文字で始め, 末尾にピリオドは付けません。 例 A simple protocol for preventing falls and fractures in elderly individuals</p> <p>3 著者名, 共著者名(和文及び英文), 責任著者, 会員非会員の別 英文表記はヘボン式, 姓名の順で, 姓をすべて大文字で表記してください(例 SEIKEI Taro)。</p> <p>責任著者(corresponding author) 1人にチェックしてください(主著者が兼ねてかまいません)。 <b>なお, 共著者がオンライン投稿システム上で入力しきれない場</b></p>	<p>情報の記載先を明記した。</p> <p>共著者が多い場合の対応を規定する。</p>

現行	変更案	備考
用紙に記載のうえ、様式第1に付して提出してください。	<b>合は、同様の表記方法で別紙に記載のうえ、そのファイルをアップロードしてください。</b>	
<b>4 所属機関名（和文及び英文）</b>	<b>4 所属機関名（和文及び英文）</b>	
各機関の正式な名称を記してください。	各機関の正式な名称を記してください。	
<b>5 連絡先</b>	<b>5 連絡先</b>	
主著者の所属機関の所在地を和文及び英文で記載してください。	主著者の所属機関の所在地を和文及び英文で記載してください。	
例 郵便番号 658-1234 兵庫県神戸市西灘区田畑町 2-1 2-1, Tabata-cho, Nishinada-ku, Kobe city, Hyogo. Zip 658-1234 住所の「字（あざ）」は、原則として英文では表記しません（自治体の正式な英文表記があれば、それを記載）。	例 郵便番号 658-1234 兵庫県神戸市西灘区田畑町 2-1 2-1, Tabata-cho, Nishinada-ku, Kobe city, Hyogo. Zip 658-1234 住所の「字（あざ）」は、原則として英文では表記しません（自治体の正式な英文表記があれば、それを記載）。	
<b>6 利益相反のステートメント</b>	<b>6 利益相反のステートメント</b>	
様式第2(利益相反自己申告書)の内容から具体的な金額など実額がわかる情報を省き、利益相反状態を要約した和文と英文を記してください。	様式第2(利益相反自己申告書)の内容から具体的な金額など実額が <b>特定される</b> 情報を <b>除</b> き、利益相反状態を要約した和文と英文を記してください。	文章を校正した。
<b>7 別刷希望部数、和文一般論文での要旨英訳の希望</b>	<b>7 別刷希望部数、和文一般論文での要旨英訳の希望</b>	
主著者が希望する場合、30部以上10部単位で製作し、30部を超える費用は主著者負担とします(別表参照)。	主著者が希望する場合、30部以上10部単位で製作し、30部を超える費用は主著者負担とします(別表参照)。	
和文一般論文で英文 abstract を用意できない場合、要旨からの翻訳のサービスを希望することができます(費用は主著者負担)。	和文一般論文で英文 abstract を用意できない場合、要旨からの翻訳のサービスを希望することができます(費用は主著者負担)。	
<b>8 受付・受理されない場合の会報への振替投稿その他についての著者の意思</b>	<b>8 受付・受理されない場合の会報への振替投稿その他についての著者の意思</b>	
受付又は受理されなかった場合、再度投稿するか、本学会会報への投稿に変更することを希望するか、学会雑誌編集委員会の決定を受け入れるか又は取り下げるかについて、主著者の意思を明記してください。	受付又は受理されなかった場合、再度投稿するか、本学会会報への投稿に変更することを希望するか、学会雑誌編集委員会の決定を受け入れるか又は取り下げるかについて、主著者の意思を明記してください。	

(注釈)

- \* 様式第1(表紙)を除いた、様式第2(利益相反(COI)自己申告書)、様式第3・4(転載許諾願い等)に変更はないため、これらの様式は省略する。
  
- \* 学会雑誌編集委員会の日臨整誌規程集変更案の最終部に収載されている「一般社団法人日本臨床整形外科学会における事業活動の利益相反に関する規則」の「附則 この規則は令和7年1月●日から施行する。」との変更案が記載されていたが、特に同規則の変更について記載されていなかったため、この部分は削除する。

様式第 1 表紙 (これと同等の様式でも可)

1 区分 国際化プロジェクト論文 和文一般論文 学会発表論文 その他 (レターなど)

2 題名 和文 \_\_\_\_\_  
英文 \_\_\_\_\_

3 著者名

主著者 1) <input type="checkbox"/> 責任著者	和文 _____	英文 _____	<input type="checkbox"/> 会員	<input type="checkbox"/> 非会員
共著者 2) <input type="checkbox"/> 責任著者	和文 _____	英文 _____	<input type="checkbox"/> 会員	<input type="checkbox"/> 非会員
3)	和文 _____	英文 _____	<input type="checkbox"/> 会員	<input type="checkbox"/> 非会員
4)	和文 _____	英文 _____	<input type="checkbox"/> 会員	<input type="checkbox"/> 非会員
5)	和文 _____	英文 _____	<input type="checkbox"/> 会員	<input type="checkbox"/> 非会員

4 所属機関名 1) 和文 \_\_\_\_\_  
英文 \_\_\_\_\_  
2) 和文 \_\_\_\_\_  
英文 \_\_\_\_\_  
3) 和文 \_\_\_\_\_  
英文 \_\_\_\_\_  
4) 和文 \_\_\_\_\_  
英文 \_\_\_\_\_  
5) 和文 \_\_\_\_\_  
英文 \_\_\_\_\_

5 主著者連絡先 所属機関所在地 和文 \_\_\_\_\_  
英文 \_\_\_\_\_  
郵便番号 \_\_\_\_\_ - \_\_\_\_\_  
電話番号 \_\_\_\_\_ - \_\_\_\_\_  
ファクス番号 \_\_\_\_\_ - \_\_\_\_\_  
電子メール \_\_\_\_\_ @ \_\_\_\_\_  
責任著者連絡先(主著者と異なる場合) 電子メール \_\_\_\_\_ @ \_\_\_\_\_

6 利益相反のステートメント

和文 \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

英文 \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

7 別刷希望部数 \_\_\_\_\_ 部 (30 部までは無料. 無料の 30 部を含めた希望する部数を記載)  
要旨英訳の希望 あり (和文一般論文で英訳サービスを希望する場合にチェック. 費用主著者負担)

8 受付・受理されない場合の意思 受付されない場合 再投稿 会報投稿に変更 取り下げ  
受理されない場合 再投稿 会報投稿に変更 取り下げ

